

1 5. 自助努力で暮らす住職接近型のライフスタイルの実現

加齢クラブ
(京阪神)

I. 活動の背景と目的

- ①急速に到来する少子・超高齢社会と国の財務悪化、家族の変容、生き方の多様化という社会変化の中でこれから高齢者になって行く50代～60代の特に女性達はどうか生きれば良いのか多くの女性達は模索している状況です。
- ②社会の変化に応じた生き方・暮らし方を行政に依存するのではなく、市民が主体となって生きるにはどうすればよいのかを元気な時から考え、自助できるシステムを仲間と共に創る場として加齢クラブを発足させました。
- ③ライフスタイルの選択の一つとして「集住協働住宅」の暮らしを提案、実行・運営を目的としたプロジェクトを創っていきます。その一環として今回の6回のトーク&レクチャーを企画、実行いたしました。

II. 活動の内容

- ①大阪天満橋ドーンセンターで第一土曜日の午前10時～12時に毎月例会を開きました。
- ②一回の一泊研修でワークショップをしました。(食事づくり：献立、買物、調理、など)
- ③例会の会場であるドーンセンター主催のイベントに2回参加いたしました。

*平成12年4月24日「集まって住む」ということを考える。

*平成13年2月17日「自立と相互依存による新しいライフスタイルの実現」。

参加目的：加齢クラブの活動をひろく一般の人々にどのように映るか、反応を知るために参加しました。

展示品：「集住協働住宅」の模型・パネル

参加の感想：本フェスティバルの参加者は日常的に対社会活動に関心がある人々であるはずなのに我々グループだけでなく調査、研究、論文発表展示に無反応である事に驚きました。人だかりはバザーや絵画などの教室だけであった。そんな中で都市計画関係者や高齢社会、老人問題研究者などからは活発に質問を受けました。また、私たちにエールを送って頂きました。

- ④6回のトーク&レクチャーを開催した。
以下が活動内容です。

第1回のトーク&レクチャー（平成12年4月23日）

プログラム：「集まって暮らす」暮らし方のハードとソフト

トーク：諸外国と我が国の対高齢者の意識を比較

*主たる講義内容

現在、女性の置かれている社会環境をグローバルな視点から検証する事により、自分の行く末にまず危機感を持ってもらう事を意図しました。そして、その現状の中において不安と危機感を取り除く手法を自らの考えを基に探っていくサポートをこのトーク&レクチャーを通じて行うことを案内。

*参加者の反応

自分の置かれている立場がおぼろげながら理解できたのではないか。その危機から脱出する方法はこの講義のシリーズを受講する事により解決できるのではなく、自らの思索と行為の中からしか生まれれないと言う事の理解がまだ充分でない。

*開催の感想

トーク&レクチャーのシリーズを通じていままで見向きもしなかった事柄に目をむけ、熟考し、実践され快適な高齢生活が迎えられるヒントになればと願いました。



トーク&レクチャー

第2回のトーク&レクチャー（平成12年6月24日）

プログラム：「集住協働住宅」成立のしくみ、「集住協働住宅」の経済的基盤

トーク：コミュニティービジネスについて

*主たる講義内容

私たちの提唱している「集住協働住宅」においてその基盤の重要な処である“仕事”の側面から検証

①人の健康寿命と定年、第3の人生設計の関係

健康寿命と定年齢がシンクロしていない。高齢者の経済活動を促進しないと算数が合わなくなる。

②社会的視野の拡大

これからは介護保険を含め、高齢者も望むと望まないに関わらず自己責任において契約に関わる機会が増してきます。社会の中で女性も今までどうりの社会意識のままでは生活がままならない状況になります。今まで以上に社会的視野の拡大を獲得することが重要。

*参加者の反応

頭では反応しつつも身体がついていけないという状況、うなづきつつも活発な意見のやり取りができない。たぶん今までの生活の中において、この種の話と関わる機会の無さが原因であろうと考えられました。

*参加者の一文

今回は「集住協働住宅」の暮らしの中での「働く」という側面から私たちが心得ておくべき重要なポイントを聞きました。集まって住む人たちはそれぞれに基本的に社会的、経済的に自

立していることが望ましい、また日常の食生活、運動、社会参加などに努力を怠らずに生きることは80歳ぐらいまで健康寿命を延ばし、働く機能が保てるというお話に私は大変共感を覚えました。次にコミュニティービジネスについては社会の動きを敏感な感覚で見つめ、自分と社会の係わりを常々考えながらビジネスを展開させていくことが大事と講師のお話を聞きながら思いました。

その他にNPOや地域通貨など私にとって未経験分野のお話も聞いて大変有意義なレクチャーでした。

*開催の感想

こういう機会を得た事により、事の重要性に気づき、意識する事が、社会に目を向け、例えば新聞の3面とテレビ欄以外にも目を通すようになる等、小さな事でも行動に現れるように成る事を期待していきたい。

第3回のトーク&レクチャー (7月15日)

プログラム：外国の老人施設の視察から

トーク：建築家の畑 俊治氏と大江 昭雄氏の対談

*主たる講義の内容

1998年10月17日～29日にかけて畑氏の視察されたヨーロッパの福祉施設で撮影されたスライドを観ながら現地の状況をレクチャー

*参加者の反応

われわれのグループは、日頃高齢者の生活を、将来に向け色々な角度から検証しているのだが、今回のレクチャーは、高齢者施設を含んではいるが、その他の身体弱者施設も含まれていた為、関心の中心が、より刺激的なそちらの方へ流れたきらいがあった。

*開催の感想

講師との内容の打合せを今回は特に催したにもかかわらず、結果的にこちらの意図したところがうまく伝わらなかったようである。若くして身体が不自由になると、年老いて身体が不自由になる事は、根本的に違うという事だけでも次回強調して二度、伝えたいと思う。レクチャーを通じて特に感じましたのはヨーロッパの老人自身の態度と弱者に対する視線が日本のそれに比べてきわめて自然であり、大人であるという印象です。その差は行政の制度の在り方でもありますが、それ以上に社会や家族、学校を含めた教育の差であると思いました。日本人の欧米指向は甚だしいのにこういうソフトや文化の輸入には熱心ではないのではないかと思います。今後の「集住協働住宅」の例会やワークショップではこの点を踏まえた内容にいたします。



トーク&レクチャー

第4回のトーク&レクチャー (9月30日)

プログラム：「集住協働住宅」の現実と幻想の間・1

トーク：「集住協働住宅」を計画で終わらせずに実現させるためには何が必要か。またそのためにどんなフィールドを創る必要があるのか

***主たる講義の内容**

最新のニュースソースをもちいて今後生活者がどのような背景の中で暮らして行かなければならないかを年金、医療介護などの社会保険や国の財政問題を中心に「集住協働住宅」の“設立の環境”と“暮らし”という側面からレクチャー

***参加者の反応**

参加の高齢者はあまり現実感がなく“何とかなる”のではという雰囲気に参加。なにか良いことが聞けるのではといった“棚からぼたもち”を期待していた様子で自らなんとかしなければならぬという危機感はなさそうでした。

***開催の感想**

今まで以上にPR活動を行ったにもかかわらず参加者は既に高齢者になった方々ばかり。その方々も上記の反応でしたので我が国は今後どうなっていくのか暗澹たる気持ちでした。せめて加齢クラブに参加して下さる方々で高齢社会に希望の持てる形で「集住協働住宅」の実現すべく努力を続けようと思えました。

第5回のトーク&レクチャー（11月25日）

プログラム：「集住協働住宅」の現実と幻想の間・2

寝屋川計画のケーススタディー

トーク：コミュニティービジネスについて

***主たる講義の内容**

大阪の寝屋川で「集住協働住宅」の大家さんになると言っていた東條様宅のケースをいくつかのプランと手法、コスト、コミュニティービジネスの展開法を具体的にレクチャー

***参加者の反応**

現実のプランがでてきましたので活発な質問や感想が飛び交いました。しかしコミュニティービジネスの部分ではどうも現実感の乏しい意見が続出、“商い”ということのイロハの認識がない状況でした。

***開催の感想**

やはり現実のプランの重みは絶大でした。しかし本当に入居や暮らしの運営の実際の話になると理想論になってしまいました。今後“商い”の部分コミュニティービジネスがなんたるかを重点にしたレクチャーを展開しようと思えました。

第6回のトーク&レクチャー（3月17日）

プログラム：「集住協働住宅」の現実と幻想の間・3

寝屋川計画の模型を見ながら協働を考える。

トーク：「集住協働住宅」と社会に対する自分の立脚点を検証す

る。

*主たる講義内容

一般家庭の主婦が社会の中でいかにスポイルされてきたかの背景を中心に今後生活者としての力をつけていく過程を「集住協働住宅」での暮らしをイメージしながらレクチャー

*参加者の反応

我が国の状況悪化に関心があるのは経済的に余裕と見られる方々と高齢期の経済的側面が心配な方々いずれもばらばらでした。高齢者自身の経済状況ではなく暮らし方や生き方を真摯に考えている方とそうでない方でレクチャーやトークの反応が違っていました。

*開催の感想

参加者間に意識の高低がありすぎるように思いました。毎月の加齢クラブの定例会に参加してきた方々はしっかりした意識の向上が見られました。毎月の勉強会の成果を見ましたので今後の定例会の大切さを感じました。



寝屋川計画模型

Ⅲ. 活動の効果及び今後の課題

①平成12年10月5日にNHKで15分間「集住協働住宅」や加齢クラブの紹介がされた。地域情報誌に取り上げられたことからNHKが加齢クラブの活動を知ったようです。その後もNHKのディレクターさんの取材を受けております（採用されれば特集番組になるかもしれません）

②今後の課題ですがなんといっても会員の数を増やすことです。

*一般的に現在の高齢者像や、今までの概念にとらわれている方が多い。また猛スピードでくる超高齢社会、政府の財務危機、家族の変容が自分に降りかかってくる問題と思われぬ人々が多いので中々会員が集まりません。加齢クラブの例会を通じて徐々に会員を増やすしかないかとも思います。（お金をかけ宣伝すれば集まるでしょうが商売ではないのでできません）

*会に参加しても実現が難しいと言って参加が続きません。（いままで勝手気儘に生きてきたから人との濃密な関係を築くことや、いろいろな拘束やきまりとかがうっとうしいのが原因のように思えます。現在の子供の状況と塾年者の考え方が同じである事は重要な事の示唆のように思えます。）

*しかし第一号の「集住協働住宅」が出来たれば、潜在的需要が喚起されて確実に会員の数は増えて来ると思います。

③第一号の寝屋川「集住協働住宅」を完成させ私たちの提案を目にみえる形にして広くPRしていきたい。